

かじまやー かめおばあの生涯



2009年12月12日【土】・13日【日】
ちやたんニライセンターカナイホール

各2回公演:【12日】13:00 / 18:00 【13日】13:00 / 17:00

開場30分前【ニライセンター 098-936-3492】

2009年12月16日【水】
浦添市てだこホール

19:00 開場30分前【てだこホール 098-942-4360】

チケット: 一般: 2,000円 / 小中高生: 1,000円

当日券: 一般: 2,500円 / 小中高生: 1,500円

演出: 栗山民也

原作: 平松幸三 編「沖縄の反戦ばあちゃん」 発行: 刀水書房

脚本: 下島三重子

主催: 北谷町 / 北谷町教育委員会

後援: 北谷町文化協会 / 北谷町商工会 / 北谷町PTA連絡会 / 北谷町女性連合会 /
北谷町老人クラブ連合会 / 北谷町青年連合会 / 北谷町子ども会育成連絡協議会
エフエム沖縄 / FMコザ / FMニライ / FM21沖縄 / NHK沖縄放送局 /
沖縄ケーブルネットワーク / 沖縄タイムス社 / 沖縄テレビ放送 / ラジオ沖縄 / 琉球朝日放送 /
琉球新報社 / 琉球放送

協賛: 沖縄電力 / 沖縄銀行 / 琉球銀行 / 沖縄海邦銀行 / コザ信用金庫 / 沖縄県労働金庫

助成: 財団法人地域創造「平成21年度地域の文化・芸術活動支援事業」

協力: 「かじまやーかめおばあの生涯」公演を支援する会



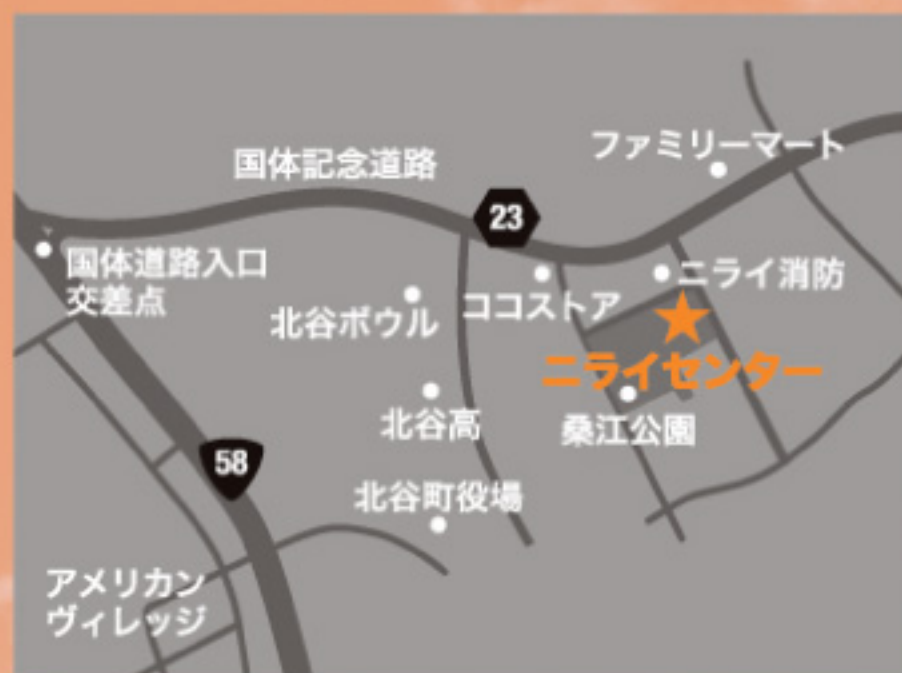
かじまやー カメおばあの生涯

物語は沖縄の一世紀に及ぶ激動の時代を背景に、その時代の波に翻弄されながらも、たくましく生き抜いた一人の女性の生涯を描いている。激戦のサイパン島で、怪我をした夫と他人の子どもを必死で守りながら逃げ惑う。命からがら捕虜となり、戦後故郷に引き揚げた時、家屋敷は米軍基地に接収されていた。10年後、やっと返還された故郷の地に家を立てたが、そこは家の真上を戦闘機が轟音を轟かせて離着陸を繰り返す場所になっていた。この時から殺人的爆音渦との長い闘いが始まり、いつしかマスコミは彼女を反基地闘争の象徴として「沖縄の反戦ばあちゃん」と呼ぶようになった。テレビはドキュメンタリー特番 [NHK] を組み、彼女の生涯が本 [平松幸三編] にもなった。

戦後間もないころ、基地の周りで生活する人々は、誰もが軍作業や米兵相手の商売で命をつなぐしかなかった。基地に苦しめられ、基地と闘いながらも基地にすがって生きていくしかなかった。ラストは、戦後64年が過ぎてもなお変わらない、理不尽な状況に置かれている沖縄の現実が浮き彫りになっていく。

おばあは、苦勞して手に入れた土地を耕ながら普通の平穩な生活がしたかっただけ、ただそれだけのことだった。しかし、そのささやかな願いが叶う事はなかった。

場面は、1ヶ月後にかじまやーを迎えるカメおばあの自宅から始まる。東京から来た劇団の山本絵里子がおばあの生涯を芝居にしようと、おばあ家族や親戚、町のみんなを巻き込んで、明るく、楽しい芝居の稽古の場面が映し出される。



ちやたんニライセンター カナイホール

沖縄県中頭郡北谷町字桑江467-1
098-936-3492
<http://www.chatan.jp>



浦添市てだこホール

沖縄県浦添市仲間1-9-3
098-942-4360
<http://www.tedakohall.jp>

出演:

浅田武雄・東由希恵・熱田裕一・伊集くらら・犬養憲子・きゃんひとみ・金城翔子・
金城由貴子・國仲正也・幸地優子・崎浜秀彌・定岡遊歩・平良謙・平良直子・田原雅之・
徳永樹・仲井間万莉・仲地未寿々・仲程千秋・樋口耕太郎・普久原明・藤木勇人・
古堅裕之・村山廉織・宮里京子・山本長光・吉田妙子 [五十音順]

照明: 崎浜秀司

音響: 富山尚

音楽制作: 赤嶺康

音楽録音: 鈴木聖子

舞台美術: 比嘉ブラザース

衣裳 / ヘアメイク: 荒井ゆう子・友寄みずの [スタイリスト オフィス ユラティ]

小道具: 古堅裕之

演出助手: 田原雅之 [TTC (仮称)]

舞台監督: 猪股孝之

撮影: 仲村春孝 [ハル企画]

デザイン: KASSAI [3PO DESIGN WORKSHOP]

制作統括: 親里英文

制作: 池原弘美 [YYカンパニー]

問い合わせ: ちやたんニライセンター生涯学習プラザ / 098-936-3492

プレイガイド: ちやたんニライセンター・コープ沖縄

